

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	日常的な外出支援が不十分。	行きたい時に外出が出来るようになる。	ごく近所でも良いので、1～2名の小グループで短時間の散歩を行う。 季節の節目(初詣、花見、紅葉狩り)等に、家族も交えた外出を企画する。	12ヶ月
2	66	職員個々の仕事で「こうありたい」という目標が持てないでいる。	職員が生き生きと仕事ができる環境を整備する。	仕事をする上での資格取得や、研修受講等を積極的に支援する。 根拠に基づいた介護を実践し、職員が入居者に支援したことが、どの様に結果として表れているかが解るように伝えていく。	12ヶ月
3	6	言葉による拘束(スピーチロック)について、職員間で認識の差が見受けられる。	スピーチロックに対する認識を統一し、適切な言葉かけが実践できる。	日常のケアで、スピーチロックに繋がる場面が見受けられた際は、リーダーと一緒に適切な方法を振り返ってみる。 内部・外部等の様々な研修の機会を設け、スピーチロックによる、入居者の弊害を学ぶ。	12ヶ月
4	30	認知症専門医との連携が不十分。	認知症専門医の受診を積極的に進め、個別のケアに活かすことが出来る。	入居者の状況を家族も交えて話し合い、事業所、家族ともに現状について共通の理解をした上で、受診支援を行う。 受診後、全職員が各入居者の状況を把握し、それをケアプランに反映する。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。